



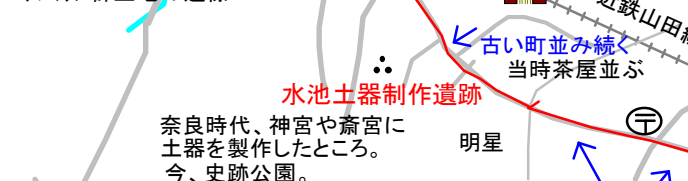
[弥次・喜多]

明星の茶屋で古市に集金にいくという上方の人と弥次さん馬に相乗りする。二人は話がはずむ。伊勢を案内するという。喜多さんは歩く。



浄土寺 (浄土宗)

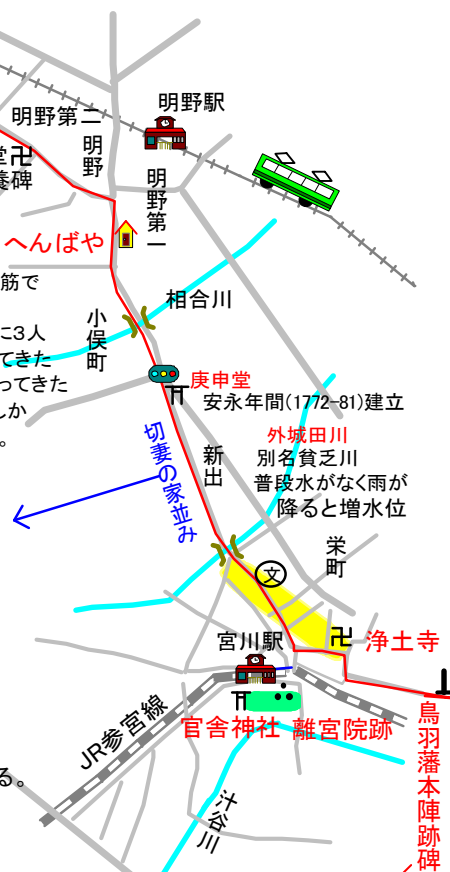
極楽や地獄を描き熊野信仰を誘った熊野観心十界曼荼羅 (江戸初期、県民俗)



小俣の名物

へんぱ餅 (今も商う。8代目)

安永4年(1775)宮川のほとり街道筋で店を開き餅を商っていた。そのころ駕籠や三宝荒神(馬上に3人乗りの鞍をおいたもの)で旅をしてきた人々がこの茶店で一休み、乗ってきた馬を返し伊勢参りしたのでいつしか返馬餅(へんぱもち)と呼ばれる。



離宮院 跡



齊王が伊勢神宮に参内するときの宿泊所として離宮が造営された。元は沼木郷高川原(現在の伊勢市月夜見宮あたり)にあったものを延暦16年(797)にここに移される。齊王は6、12月の月次祭と9月の神嘗祭の年3回参内される。斎宮を出発され離宮院で1泊、翌日外宮へ、戻って1泊。翌日内宮へ、戻って1泊され斎宮へ戻られる。3泊4日の行程であった。離宮は宿泊所であると同時に神宮の政庁、また駅家でありこの地方の政治経済、交通の要衝であった。承和6年10月(839)大火で焼失、その後復興するが制度の変更、戦乱の世となり荒廃した。

官舎神社



祭神 建御雷之神、経津主神元は大宮司家中臣の氏神。桓武天皇の延暦16年、離宮院が伊勢からここに遷座した時に神宮祭主大朝臣諸魚が津島崎から中臣氏社を離宮院境内官舎近くに、奉遷し式内官舎神社とした。その後荒廃。寛文3年(1663)宮司中臣精長が境内の石垣を見つけ小祠を建て再興。その昔、離宮さん、お旅の宮と親しまれ、旅の安全、海上安全の祈願所であった。

